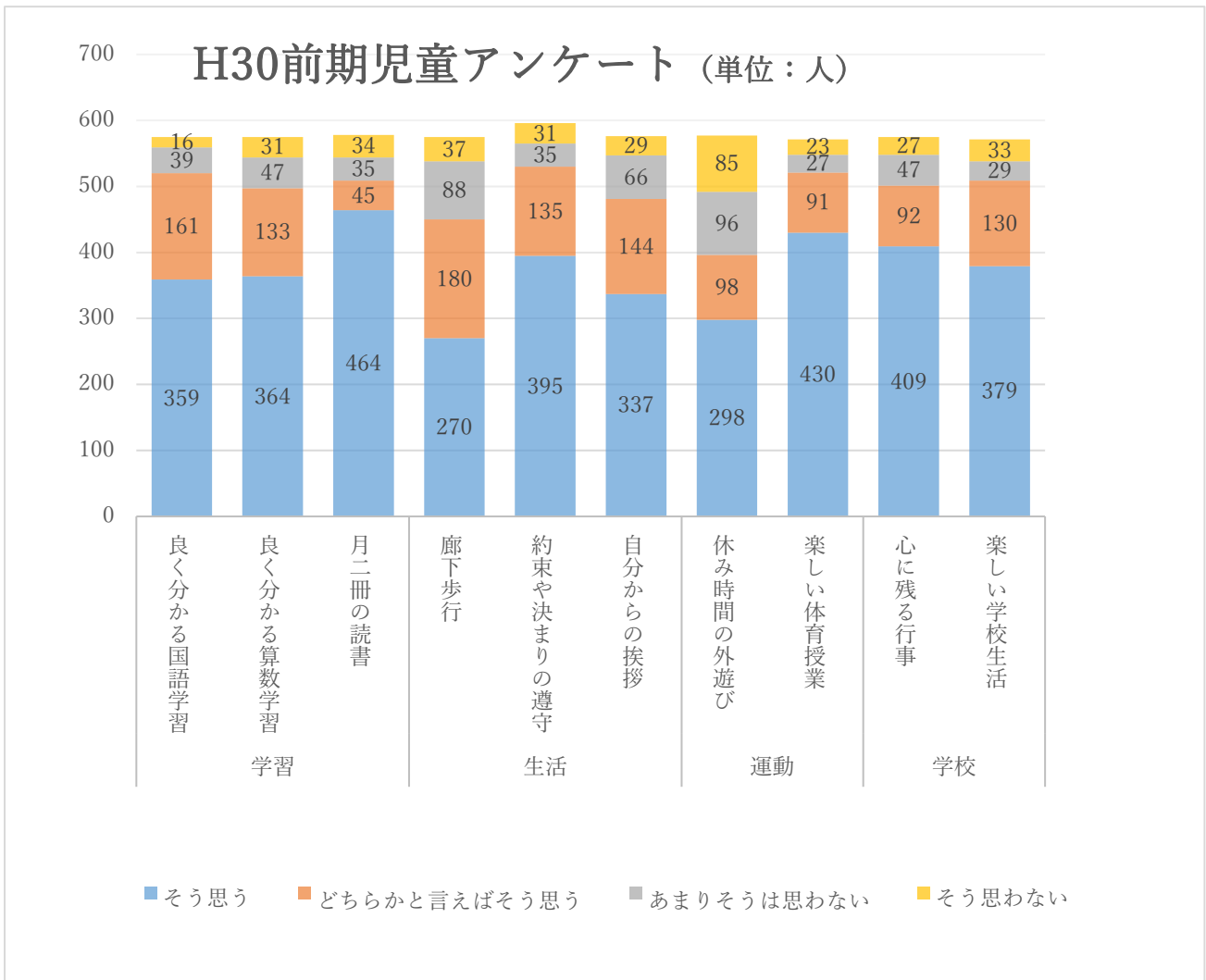


# 平成 30 年度前期児童アンケート結果

(平成 30 年 7 月 2 日に全校児童を対象に実施)



## 1、学習

「国語の勉強はよく分かったか」という質問について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は、90.4%でした。同じく算数の勉強についても 86.4%が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えています。本年度、生駒小学校は「自ら学び自ら考える子の育成」のために、学習した事柄が他の分野の学習や生活に活かせるよう、ICT 機器等の効果的な活用で、基礎的、基本的な知識や技能をどの子どもにも習得させることを重点課題としています。教室にパソコンを持ち込み、教科書にはない資料を提示したり、書画カメラで拡大して具体物を見せたりと、教員は子どもたちがよく分かり、深く学べる授業を日々目指しています。また、毎朝 8 時 45 分から 9 時までの「はげみ学習」で子どもたちに漢字や計算の力をつけ、どの教科の学習にも必要な基礎的基本的な学びの力を養ってきました。

このように、すべての学習において「分かる」「できる」「使える」「作る」を視点に授業を行ってきたことが、この結果につながったと思います。国語や算数はすべての教科の基盤となるもので、このよ

うな学習の基礎的基本的な事柄は、子どもたち一人一人の一生の財産となります。

そして今後はこの結果を受けて、どの学級でも「ともに学び、豊かな学びを創造する授業づくり」に力を入れなければならないと考えます。個人にもグループにもはっきりとした取り組むべき課題があり、先生や友達の意見を聞きながら課題を解決し、学びの成果をお互いがたたえ合える、つまり安心感、やりがい感、達成感が味わえる授業づくりに取り組まなければならないと思います。

「ひと月に2冊ほどは本を読んだ」という問いに、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は88.1%でした。人は言葉を知って知識を得、物事を考え、コミュニケーションを図ります。言葉が豊かでないと考えは豊かになりませんし、言葉が正確でないと考えも正確になりません。言葉の力を育む上で、本を読むことは非常に重要です。また、これからの時代に求められる国語力の向上のためには、自ら本に手を伸ばす子どもを育てることが大切です。よって本校では、子どもたちが好む様々な分野の本を知っていて、子どもたちと一緒に本について話し合ってください学校図書館司書と「としょックス」というボランティアの方が、図書室にいてくださっています。好きな本を読む、自由な読書を積み重ねることにより、本が好きになった子どもたちは、朝の10分間の読書タイムにとどまらず、毎日それ以上の読書が習慣になりつつあると思われまますので、ご家庭でも子どもたちの読書活動を見守っていただけたらと思います。

## 2、生活

本校の本年度の生活目標は、年間を通して「ルールを守って生活しよう、廊下歩行日本一」です。4月以降、校内では廊下の床に中央線がテープでひかれ、右側通行の徹底のために歩く方向を矢印で示しました。参観や懇談で来校されたときに、保護者の皆様も驚かれていましたが、これらの取組により、「廊下は走らず、歩いている」という質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は78.3%でした。今後もこの生活目標について、全校集会などで折に触れて児童に話し、注意を呼び掛けたいと思います。

「学校の決まりはもちろん、家の決まりや友達との約束、交通ルールを守っているか」には、88.9%の児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。近年の子どもの規範意識の低下については、今までも全国学力・学習状況調査などで取り上げられてきましたので、本校児童の88.9%という数値には驚きを隠せません。決まりやルールを守るとは学校教育だけではなく、家庭教育とも密接な関係がありますので、このような高値は家庭教育のおかげであるとも言えます。良いことと悪いことが判断できる子どもの育成は社会にとっても大変重要なことです。家庭や学校という小さな世界から社会という大きな世界に飛び出す時に、良いことと悪いことの判断を身に付け、人に迷惑をかけることや人を傷つけることはいけない事だときちんと理解している、そんな子どもの育成に、学校は学校生活のあらゆる場面で取り組んでいきたいと思ひます。

「近所の人、学校の先生、友だちに自分から挨拶することができた」については、83.5%の子どもが「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。登校途中には地域の方がたくさん道端に立って見守りをしていただけていますが、その方たちは「初めのうちはこちらが声をかけても無言でしたが、ずいぶん挨拶を返してくれるようにはなりました。」とおっしゃっています。挨拶は一方通行では成り立たないコミュニケーションです。家族や地域の方はもちろん、学校では先生や来校された方にも、気持ちのいい「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」を言ってほしいと思ひますの

で、教職員も積極的に子どもたちに挨拶をしていこうと思います。

### 3、運動

「体育の時間は楽しく運動できた」に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は91.2%です。生駒小学校は本年度、奈良県小学校体育研究会前期研究大会の会場校として授業を県内の先生方に公開しました。そのため、昨年度から「なかまとともに楽しみながら運動する子どもの育成」を研修課題として授業づくりに取り組んできましたが、その結果がこの数値に表れていると思われます。アルティメットやボンバーゲームは、子どもたちが夢中になっただけでなく、運動量も十分で、作戦を考えるなど思考力も必要な教材でした。

「休み時間は外に出て遊んでいる」について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は68.6%しかおらず、少し心配な結果です。外遊びを推奨するために、1学期半ばから、休み時間に外に出て子どもたちと一緒に遊ぶ教員もいました。テレビやパソコンのゲーム、お稽古事等で、帰宅後体を動かす機会が減っている昨今、休み時間の遊びは体を動かす貴重な機会と言えます。また、最初はどううまくいかず失敗していたのに、時間をかけて努力しているうちにできるようになるなど、遊びは成長する喜びと努力する大切さを学び、心の成長を実感するよいチャンスにもなります。この結果から、外遊びの推奨については、今後取り組んでいかなければならない課題であることが分かりました。

### 4、学校生活

「心に残る学習や運動、行事があった」という問いには87.1%の児童が、また「生駒小学校は楽しい」という問いには89.1%の児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。非常にうれしい結果です。子どもたちが「学校に行きたい」と願い、「友だちや先生と一緒にいたい」と思えるような学校づくりが順調に進んでいることが感じられます。1学期はクラス替えがあり、担任も変わり、4月当初は不安な毎日だったと思いますが、学校全体の行事、社会見学、校外学習、学年行事等を教職員が綿密に計画し、実施できたことがこの結果につながりました。子どもたちが意欲的、積極的に参画する行事や体験活動のために、今後も、達成感を味わえる目標設定、子どもたちが協力して取り組めるような助言、所属感が高まるような良き友だち関係の構築に配慮しながら指導していきたいと思っています。